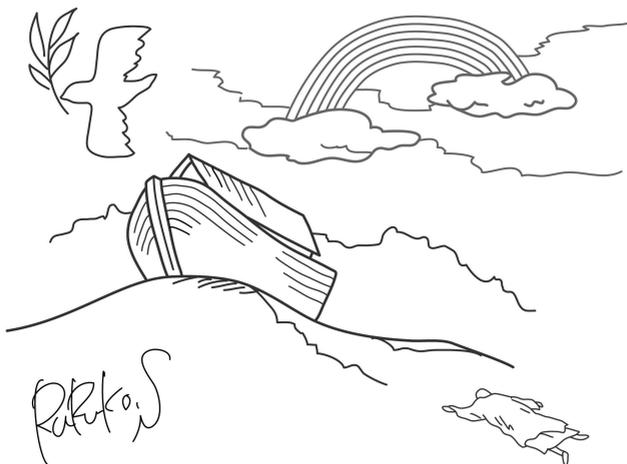


エアミス
Airmys
非実在 探偵小説研究会

9



エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会 9号 目次

企画

企画1 お題競作「バカミス」

雄弁な、あまりにも雄弁な

最初の事件

死屍累々と華麗なる虐殺

歪な誘拐

白い館の精霊

「学園七不思議の殺意」

うっかり館の殺人

企画2 二〇一四年度エアミス研ミステリランキング

企画3 ライトノベル・少女小説から選ぶオールタイムベストミステリ結果発表《完全版》

読み切り短編

「空から来たモノ」

その他

〈コラム〉名探偵はボーイミーツガールの夢を見るか？ ないとー

〈連載〉富士見ミステリー文庫ガイド 第二回 ないとー

〈ミニコラム〉 私が偏愛するマイナー作品紹介

表紙・扉ページ・本文図(一部)

ウスダアヤ

森煮豆仁……………6

岡村美樹男……………20

紫藤はるか……………31

麻里邑圭人……………51

根倉野蜜柑……………67

闇来留潔……………83

佐倉丸春……………116

……………137

ないとー……………143

方功鉄文……………186

……………177

……………221

……………226

「学園七不思議の殺意」

闇来留潔あんくゝるきよし

『世の中の関節は外れてしまった。ああ、なんと呪われた因果か、それを直すために生まれついたとは！』（シエイクスピア『ハムレット』第一幕第五場、野島秀勝訳）

おもな登場人物

城ヶ崎美麗じょうがさきみれい……主人公。ミステリマニアの中学生女子。
安藤先生あんどう……数学教師。
稲田公章いなだみみあき……犯人。国語教師。
小笛莉愛おふえりあ……稲田の中学時代の恋人。故人。
鈴木信男すずきののぶお……殺された男子生徒。

* 七月十一日　く稲田公章く

彼が自室の大きな本棚の前に佇んでいるならば、それは大抵何かに思い詰めている時だ。彼は棚を端から端へ眺めながら、小説や戯曲、新書、歴史書……それら雑多に並べられた本の表紙を指でなぞる。そして彼は、二十年もの間繰り返し続けた逡巡をいつも通りになぞりつつ、『ハムレット』という凡庸な選択に立ち返ってしまう。「稲田くんはいつもそれね」小笛莉愛の声が耳元をくすぐった。「同じものばかり読んでいて飽きないの?」「そもそも君が勧めてくれたものじゃないか」彼は莉愛の呆れたような物言いに愕然としながら言った。「君はいつもそうやって勝手なことを言う」

稲田は文庫本を携えながら布団に寝そべり、目覚まし時計を七時にセットする。まるで機械のように定められ

た一連の動作を、彼は平常運転でなし終えた。

彼がその文庫本を小笛莉愛からもらったのは、稲田が緑ヶ丘学園の学生だった時、今から二十年以上前のことである。以来、彼は事あるごとにこの本を開いた。それは本棚の一番高いところにあつて、いつでも彼を莉愛との思い出へと導いてくれた。

例えば、あの夜の校舎。

あれは月の綺麗な夜だった。

彼と莉愛は夏休みの学校に忍び込み、月夜に照らされた校舎を楽しんだ。莉愛は行動力旺盛で、そのくせ自分の行動を人には説明しない、どこか強引な娘だった。

「月が綺麗だな」

「それは漱石？ 人の言葉を借りるなんて、真摯さが足りないわ」

「ただの情景描写だよ」彼は呆れたように言う。「夜の学校っていうだけで、こんなに楽しいのは何でだろう。ヘカテーの司る月だから、魔力があるのかもしれないな」

「月には魔力があるわ。だって、『ハムレット』で彼を殺した猛毒も、月夜に摘み取った薬草で作ったんだから」あんなに良い雰囲気のに、悲劇の話をするあたりがいかにも彼女らしかった。

「ねえ、この学校の七不思議、知っている？」

「そんなものがあつたのか。どんなのだ？」

月は屋外プールの水面に映り込み、わずかな波紋にも儂くその姿を揺らがせていた。

「そうね。例えばこんなのがあるわ」莉愛は振り返って笑う。「この屋外プールには女の子の幽霊がいて、夜中に水面に近付く者を引きずり込んでしまうの」

彼女はそう言いながら、プールサイドに躍り出た。

「どうして君は、今から行く場所の怪談をわざわざ話したんだ」

口では不満を漏らしつつも、彼は特に幽霊を信じていなかったたので、靴についた泥を払いながら彼女についていった。彼女は脱いだ靴と靴下を手を持ちながら、プールサイドで踊っていた。月と水面の月のスポットライトが、彼女の端正な顔立ちを夜に浮き上がらせている。

「……綺麗だな」

「月が？」

「そうだな、月が」

彼女は薄く微笑むと、プールサイドに座り込み、素足をプールの中に差し入れた。

「気持ちいいわよ。あなたも来る？」

隣をそつと示す彼女。彼は本当に月の魔力にでも魅入られたかのように、その隣に腰かけた。

「本当に気持ちの良い夜。そう思わない？」

「そうだな。まるで世界に二人きりみたいだ」

彼女は微笑みながら小首を傾げた。

彼は幸福だった。いつまでもそんな時間が続くと思っていた。しかし、彼は彼女にそつと忍び寄っていたあの黒い手に、まるで気が付かなかつたのである。

……その翌朝、プールに浮かんだ彼女が発見された。

青ざめた美しい顔に張り付いた長い黒髪。力なく天に向けられた二つの手の平。その姿は絵に描かれた悲劇のオフィリアそのものだった。

あの日以来、彼の^{もと}下には幽霊が現れるようになった。

ハムレットの父の幽霊でも、マクベスの幽霊でもなかった。それはオフィリアの幽霊だ。

『オフィリアを愛していた。たとえ幾千幾万の兄があり、その愛情すべてを寄せ集めたとしても、俺一人のこの愛には到底、およぶまい』

彼はオフィリアを愛していた。『ハムレット』を書棚から取るたびに、彼女はいつものからかうような笑みで、彼の前に現れた。しかし彼女の肉体はもうこの世に

ない。

あの月夜の日、彼の世界の関節は外れてしまった。

しかし、彼はそれを直すために——生まれついたわけではなかつたのである。

七月十三日の深夜十二時前後。

稲田公章は鈴木信男を殺害した。

1 七月十七日 く城ヶ崎美麗へ

教室に差し込んだ夕暮れの日差しと、安藤との間に流れる穏やかな空気が城ヶ崎美麗を温かく包んでいた。彼は優しい笑みを崩さなかつたが、手にしたノートを見つめる眼鏡の向こうの目は鋭い。

「……ああ、ここだよここ」彼はノートを美麗に向けてとんとんと指で叩いた。「ここで計算ミスしている」

「あつ、本当だ。ありがとうございませす」

「一つ答えを出してしまおうと、他の答えを考えるのが難しくなってしまうよね。僕もそうだ。これからは気を付けるように」

安藤の説教は全然偉ぶ^{えら}つていなくて、いつも美麗と視

線を合わせて数学を教えてください。それはもちろん、彼が新任の教師でまだ年若いせいでもあるが、安藤自身の柔和な物腰に依るところが大きい。美麗が大嫌いな数学に一生懸命取り組めるのは、ひとえに彼のおかげだった。「それにしても、間違えるたびにすぐ僕の所に持つてくるのは問題だな。ちよつとは自分で考えてみた方がいいと思うよ」

「そしたら一人で解かなくちゃいけないじゃん」

「数学の問題集は一人で解くものだぞ」

「みんなで解決しなきゃいけない問題はあるでしょ」

「それは少なくとも」彼は苦笑しながら問題集を手に取る。「このことじゃないよな？」

美麗は安藤の物言いにカチンと来て、思わず言い返す。

「じゃあ、この問題はどうですか？」彼女は勢い込んで顔をずいと突き出した。「プールで溺死した男子生徒の謎、とか」

「それはみんなで解決すべき問題だな。ただし、警察が」「んもう、どうして先生はつれないの」彼女は馴れ馴れしい口調で、十も年の離れた教師に膨れている。「先生も好きじゃないですか、ミステリー」

城ヶ崎美麗はミステリー、特に謎解き要素の強い本格

ミステリが好きだった。父親が警察官であることもそれに深く影響していたが、最も大きなキツカケは安藤が勧めてくれたからだ。お気に入りの教師との親睦を深めたという一般的な女生徒の感情を抱いた美麗は、自分の好きなファンタジーを一冊先生に勧める代わりに、先生にミステリーを一冊勧められた。以来、ミステリーと安藤の虜になった彼女の前に、不可解な殺人事件が出現したわけである。血もたぎろうというものだ。

「現実の殺人と、僕らの好きな架空の殺人は全然別物だよ。現実の事件を弄ぶなんて、僕には出来ない」

美麗が目吊り上げてしばらくむくれていると、やがて安藤は溜め息を漏らしながら手にした本を閉じた。

「……まあ、話くらいなら聞こうか」

「そう来なくっちゃ」美麗はにんまりと笑った。

続きは「非実在探偵小説研究
会9号」でお楽しみ下さい。

企画2 2014年度エアミス研ミステリランキング

エアミス研研究会が選んだ2014年度のミステリランキングです。2013年9月～2014年10月の間に発売された国内ミステリ新刊書を対象としています。投票者が選んだ5作品を1位：5点、2位：4点…5位：1点として集計しました。

各作品レビュー：麻里邑主人

1位：麻耶雄嵩「さよなら神様」【56点】

あの問題作「神様ゲーム」の続編にして冒頭から犯人の名前が明かされるという画期的な趣向の連作ミステリ。

最初は取っ付きにくいかも知れないが「バレンタイン昔語り」以降は作者の本領というべき極悪な企みに茫然とさせられる作品である。

2位：連城三紀彦「小さな異邦人」【54点】

単行本未収録だった短編を集めた作品集。収録作八編のうち、二編は恋愛小説の範疇に入る作品だが、そこに使われた手法からミステリとして読むことも可能だろう。

全体的に高レベルだが特に誘拐ミステリの新境地である表題作と「蘭が枯れるまで」が圧巻。

3位：円居挽「河原町ルヴォワール」【49点】

ルヴォワールシリーズの最終作。今回の裁判パートは些か大人しめだが、作者の狙いはむしろ「最後の一撃」と題した終章にある。

この終章で炸裂する大仕掛けと第一作を思わせる幕切れが実に心地良く、シリーズの最終作に相応しい秀作と言っていだろう。

4位：白井智之「人間の顔は食べづらい」【47点】

第34回横溝賞の最終候補作にして今年度最大の怪作。

人間のクローンが食用化されるようになった近未来社会が舞台という時点でキワモノ認定されがちだが、その実体は極めてロジカルな異世界本格ミステリという一筋縄ではいかない作品である。

5位：米澤穂信「満願」【36点】

第27回山本周五郎賞を受賞したノンシリーズ短編集。

ある時は横山秀夫、またある時は連城三紀彦といった具合に本作を読んでいると様々なミステリ作家の作品を読んでいるかのような錯覚を覚える。

そういう意味では本作はパスティーシュ短編集とも言えるかもしれない。

6位:早坂吝「○○○○○○○○殺人事件」【27点】

第50回メフィスト賞受賞作。本作はタイトル当てを趣向としているが、それ以上にメフィスト賞らしい酷い一発ネタ（褒め言葉）が素晴らしい。

本格ミステリとしても出来は良いのでバカミス愛好家は勿論のこと、本格好きにもお勧めしたい作品である。

7位:東川篤哉「純喫茶『一服堂』の四季」【26点】

本作は一見、流行りの〇ブリア系っぽい連作ミステリだが、扱っている事件は全て猟奇殺人、しかもバカミス度は高めときている。

特に最終作は開いた口が塞がらないバカっぷりであり、賛否両論はあるが一度読んだら忘れられない会心作である。

8位:歌野晶午「ずっとあなたが好きでした」【18点】

本作は十三編から成る恋愛小説集だが、作者がああ歌野だけあって所々にミステリの技巧が発揮されている。

だがそれ以上に素晴らしいのはミステリの仕掛けが物語に絶妙な深みを与えていることであり、読了後にタイトルが胸にしみてくる傑作である。

9位:岡田秀文「黒龍荘の惨劇」／北山猛邦「ダンガンロンパ霧切2」【17点】

前者は探偵・月輪シリーズの2作目で探偵小説らしい事件の中に隠された現代本格ならではの構図が強烈。

後者はゲーム「ダンガンロンパ」のスピノフ第二弾でクローズドサークルとコンゲームが同時に楽しめる異色作である。

10位:河合莞爾「ダンテライオン」【15点】

鍋木警部補率いる特捜班が活躍するシリーズの三作目。今回は密室状態の廃牧場のサイロで発見された空中で刺殺されたと思えない死体の謎に挑んでおり、その島荘流奇想本格の要素を巧みに取り入れたプロットは三作目にしてベテランの風格が備わっている。

《11位以下の作品》

【12点】 青崎有吾「風ヶ丘五十円玉祭りの謎」

【10点】 知念実希人「天久鷹央の推理カルテ」

【8点】

月原涉「黒翼鳥 NCIS特別捜査官」／森晶磨「黒猫の約束あるいは遊行未来」／森川智喜「半導体探偵マキナの未定義な冒険」

【7点】

高殿円「シャーリー・ホームズと緋色の憂鬱」／古野まほろ「その孤島の名は、虚」／皆川博子「アルモニカ・ディアボリカ」

【6点】

芦辺拓「異次元の館の殺人」／有栖川有栖「怪しい店」／霞流一「フライプレイ！ 監棺館殺人事件」

【5点】

黒沼昇「犯人がわかりますん。」／周木律「五覚堂の殺人」／深木章子「殺意の構図 探偵の依頼人」／山本弘「僕の光輝く世界」／吉田修一「怒り」

【4点】

青柳碧人「浜村渚の計算ノート 5さつめ 鳴くよウグイス、平面上」／朝井リョウ「スパーードの3」／河野裕「いなくなれ、群青」／下村敦史「闇に香る嘘」／高木敦史「演奏しない軽音部と4枚のCD」／明利英司「旧校舎は茜色の迷宮」／望月守宮「無貌伝～奪われた顔～」

【3点】

芦辺拓「金田一耕助VS明智小五郎 ふたたび」／天祢涼「都知事探偵・漆原翔太郎」／石持浅海「御子を抱く」／浦賀和宏「姫君よ、殺戮の海を渡れ」／小川晴央「僕が七不思議になったわけ」／木崎ちあき「博多豚骨ラーメンズ」／北原尚彦「ジョン、全裸連盟へ行く」／長沢樹「冬空トランス」／中山七里「追憶の夜想曲」／早瀬耕「未必のマクベス」／東川篤哉「魔法使いと刑事たちの夏」／深水黎一郎「世界で一つだけの殺し方」／岬鷺宮「失恋探偵ももせ3」

【2点】

愛川晶「ヘルたん ヘルパー探偵とマドンナの帰還」／浦賀和宏「彼女の倅を祈れない」／遠藤武文「フラッシュモブ 警察庁情報分析支援第二室〈裏店〉」／菅原和也「柩の中の狂騒」／倉阪鬼一郎「波上館の犯罪」／柄刀一「密室の神話」／十市社「ゴースト≠ノイズ（リダクション）」／西澤保彦「探偵が腕貴を外すとき」／深木章子「敗者の告白 弁護士陸木怜の事件簿」／詠坂雄二「亡霊ふたり」

【1点】

あやめゆう「夜を歩けば1」／石持浅海「二歩前を歩く」／内田康夫「遺譜 浅見光彦最後の事件」／田代裕彦「魔王殺しと偽りの勇者2」／古野まほろ「外田警部、カシオペアに乗る」／森川智喜「なぜなら雨が降ったから」／連城三紀彦「処刑までの十章」

2015年度ランキングもお楽しみに！

2014年度エロミス研ランキング

対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。“エロミス”の評価基準としては『どれだけ自分がそのシチュエーションに興奮したか』です。早い話、恥も外聞もかなぐり捨てて、思う存分自分の性癖をさらけ出した赤裸々ランキングとなっております（爆）

各作品レビュー:麻里邑圭人

1位:早坂吝「○○○○○○○○殺人事件」【26点】

第50回メフィスト賞受賞作。

エロミスとバカミスが融合した結果、読者は酷いネタのはずなのに読後感は妙に清しいという不思議な体験(?)をすることになる。

それと処女厨が本作を読むと、いつの間にかビッチ萌えになっている可能性が微し存。←

2位:石持浅海「相互確証破壊」【22点】

エロと本格の融合を目指した異色の短編集。

「前戯から始まる伏線、絶頂で閃く名推理」という内容紹介に偽りは無いが、登場人物たちが行為の最中でも冷静に推理を進めているという構図は端から見るとかなりシニカル（爆）。ベストは「カントリー・ロード」。

3位:長沢樹「冬空トランス」【13点】

美少女探偵・樋口真由シリーズの中編集。

エロミスとしてはやはり「夏風邪とキス以上のこと」ラストのこの作者らしいエロスの匂わせ方が堪らないが、個人的にはむしろ「モザイクとフェリスウィール」に登場するルチオ・フルチ好きの女子高生(!)に痺れた。←

4位:西澤保彦「下戸は勘定に入れません」【10点】

作者が得意とするSF設定と酩酊推理を合体させた連作ミステリ。

本作をエロミスたらしめているのは一編目「あるいは妻の不貞を疑いたい夫の謎」で、予想外のところからくる真相に寝取られ好きは歓喜すること間違いなし(?)のエロミスの快作である。

5位:中山七里「追憶の夜想曲」【6点】

「贖罪の奏鳴曲」に続く悪辣弁護士・御子柴礼司シリーズの二作目。

本作をエロミスとしてみた場合、気持ち悪いという意見もあるかもしれないが、この手のネタが好きなのが少なからずいるのも事実。



あと最初から前作のネタを割っているので前作未読の人は要注意。

《5位以下の作品》

【5点】 青崎有吾「風ヶ丘五十円玉祭りの謎」

【4点】 菅原和也「枢の中の狂騒」

【2点】 二宮敦人「四段式狂気」／藤崎翔「神様の裏の顔」

【1点】 長江俊和「出版禁止」／東川篤哉「魔法使いと刑事たちの夏」／悠木シュン「スマドロ」／米澤穂信「満願」

2014年度漫画・ゲーム・映像ミステリランキング

漫画、ゲーム、映像、その他を対象とした、ランキングです。対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。今回、総投票数が少なかったため、1位以外は票がばらけた結果となりました。

作品レビュー：麻里邑圭人

1位：加藤元浩「ラブストーリー」（「Q.E.D.」49巻）【11点】

アマチュア映画監督の老人が遺した映画の完成形を推理する恋愛ミステリの傑作。

本作では読者もまた映画の観客の一人となる。全ての謎が解かれ、その完成形が明らかになった時、読者は一人の人間の人生に胸を打たれることだろう。

《1位以下の作品》

【6点】 米林宏昌「思い出のマーニー」

【5点】 小池健「LUPIN THE IIIIRD 次元大介の墓標」／埼玉大学推理小説研究会「ダブルレンズ」／ひよどり祥子「おかえりさんの島」（「死人の声をきくがよい」4巻）／マーク・ゲイティス他「三の兆候」（「SHERLOCK シーズン3」）

【4点】 加藤元浩「ライオンランド」（「C.M.B.」26巻）／クリス・バック「アナと雪の女王」／菅原敬太「澄川耕作・36歳」（「走馬灯株式会社」9～10巻）／マーク・ゲイティス他「空の霊柩車」（「SHERLOCK シーズン3」）／ヤーン・シュ・サース「悪童日記」

【3点】 加藤元浩「その朝、8時13分」（「C.M.B.」25巻）／正岡謙一郎／麻倉圭司「愛情のシナリオ」（「福家警部補の挨拶」6話）／マーク・ゲイティス他「最後の誓い」（「SHERLOCK シーズン3」）／山田鐘人／岡崎河亮「私は一体誰でしょう？」（「名無しは一体誰でしょう？」1巻）

【2点】 若木民喜「神のみぞ知るセカイ」25巻／丸茂周／麻倉圭司「或る夜の出来事」（「福家警部補の挨拶」9話）／黄瀬和哉「攻殻機動隊ARISE border:3 Ghost Tears」／五味一男・田中克樹・水野光博・龍田力「蘇る死体」（「超推脳KEI」5巻）

【1点】 天樹征丸・さとうふみや「亡霊校舎の殺人」（「金田一少年の事件簿R」2～3巻）／skyfish「箱庭ロジック」／矢樹純・加藤山羊「ハラキリグモ婚」（「あいの結婚相談所」1巻）

投票へご協力ありがとうございました。





非実在探偵小説研究会～Airmys～ 9号

発行日 2015年5月4日
発行 エアミステリ研究会
連絡先 airmysdj@gmail.com
<http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>
価格 800円
印刷所 株式会社ポプルス

Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2015 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています